

| | | | | | | | |
|---|--|-----------------|-------------------------------|----------------|-------------------|------|-------|
| 授業科目名 <英訳> | ILASセミナー：人文研ゼミ 暗号解読と言語解読の歴史 ILAS Seminar :History of deciphering and decoding | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人文科学研究所 准教授 伊藤 順二 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール |
| 開講年度・ 開講期 | 2018・前期 | 受講定員 (1回生定員) | 12(12)人 | 配当学年 | 1回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 火5 | 教室 | 人文科学研究所本館1階講義室 112号室(本部構内) | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | 現代史 / 暗号 / 言語 / 情報 | | | | | | |
| [授業の概要・目的] | | | | | | | |
| <p>情報の迅速かつ安全な伝達は、「情報社会」ということばが使われるよりはるか以前から、人間の社会と文化にとって重要な課題でした。言語の研究は西欧では植民地の拡大、世界観の革新と並行してすすみ、認識論の変化をも促しました。</p> <p>現在の情報の多くはデジタルな領域で流通されていますが、少なくとも暗号に関する限り、数学的操作を情報伝達に利用する発想は古くからありました。暗号技術は19世紀以降に急速な発展を遂げますが、これも通信技術の発展や政治的経済的な世界の一体化と並行して起こっています。</p> <p>今年度は映画化もされたチューリングの伝記を読み、20世紀前半に現れた現代につながる諸問題を俯瞰し、情報史を通じて「いま」の歴史性について考えます。</p> | | | | | | | |
| [到達目標] | | | | | | | |
| <p>言語とコミュニケーションの歴史の重要性を理解する。 多人数向け報告の基礎的知識と基本技法を習得する。</p> | | | | | | | |
| [授業計画と内容] | | | | | | | |
| <p>教科書を輪読し、同時に教科書に関連する報告をしていただく予定です。 (授業計画は、受講人数や受講生の希望によって適宜変更します。以下は関連すると思われる項目を教科書の順にを大まかに並べたものです)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 大英帝国のエリートと高等教育 3. 大戦と社会的・知的変化 4. 数理論理学の発展 5. 戦争と暗号 6. 暗号解読の機械化 7. 総力戦と情報戦 8. 汎用計算機の構想 9. 機械は考えることができるか 10. イギリスの没落とアメリカの世紀 11. 生物学と計算機 12. ソ連と諜報活動 13. 同性愛者の「危険性」 14. おわりに 15. フィードバック | | | | | | | |
| ILASセミナー：人文研ゼミ 暗号解読と言語解読の歴史(2)へ続く | | | | | | | |

ILASセミナー：人文研ゼミ 暗号解読と言語解読の歴史(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

一人2回の報告(40×2),および平常点(20)

「平常点」は単なる出席ではなく、授業中の議論への参加度を考慮します。

【教科書】

アンドルー・ホッジス 『エニグマ アラン・チューリング伝(上・下)』 (勁草書房) ISBN:978-4-326-75053-5, -75054-2

【授業外学習(予習・復習)等】

報告者は授業前に報告を準備する。

他の受講者も事前に教科書等からおおまかな報告内容を予期し、質問等を考えておく。

【その他(オフィスアワー等)】